

研究分野		授業科目名				科目責任者	
組織培養・免疫系分野		分子病原微生物学特論Ⅰ・Ⅲ				齊藤 峰輝	
開講年次		共通／専攻／選択		単位数			
1,2,3,4		特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択		特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
(1) 研究対象の病原体に関する最新の知識を修得する。 (2) 科学研究に必要な仮説の立て方とそれを証明する方法, 結果の解釈について一連の流れを体得する。 (3) 研究論文を正しく理解して, 内容を簡潔かつ正確にプレゼンテーションするスキルを身につける。							
授業到達目標							
(1) 権威ある医学雑誌に掲載された論文を読み, 各種実験手法とその適用について理解できる。 (2) 当該研究に至る背景と仮説の立て方, 証明する実験計画, 結果の解釈と考察を簡潔にまとめることができる。 (3) 論文を批判的に読み, 疑問点と改善点を挙げて簡潔にまとめることができる。 (4) 次に行うべき研究について提言をまとめ, (1)～(4)をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	毎週	月	17:00-18:00	堺 立也	講義	[抄読会]	Fields Virology (6th ed.) の抄読, それに関する論文の紹介とディスカッションを行う。 [場所:本館棟6階カンファレンス室12]
2	毎週	火	17:00-18:00	内藤 忠相	講義	[抄読会]	ワクチン開発に関する最新の重要文献をレビューする。 [場所:本館棟6階カンファレンス室12]
3	毎週	水	17:00-18:00	齊藤 峰輝	講義	[抄読会]	ウイルス学に関する最新の重要文献をレビューする。 [場所:本館棟6階カンファレンス室12]
4	毎週	金	17:00-18:00	沖野 哲也	講義	[抄読会]	寄生虫学領域のNTDs (neglected tropical diseases) について, 参考文献をもとに討論する。 [場所:本館棟6階カンファレンス室12]
評価方法							
<b>【特論Ⅰ】</b> (1) 1年間※で, 講義は30時間出席し, 科目責任者から履修手帳に出席印をもらい, 提出する。 (2) 1年間※で, 論文紹介または症例発表を2回行い, その要約2編を提出する。 <b>【特論Ⅲ】</b> (1) 1年間※で, 講義は15時間出席し, 科目責任者から履修手帳に出席印をもらい, 提出する。 (2) 1年間※で, 論文紹介または症例発表を2回行い, その要約2編を提出する。 ただし, 特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものと異なる論文(症例)であること。 特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。 ※1～3年生は2月末まで, 4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。33頁:単位履修方法参照。							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
発表時にはディスカッションを通して理解度を確認する。また自らの研究との関連についても議論する。							
教科書							
ISBN-9781451105636, Fields virology 6th Edition, David M. Knipe et al., Lippincott Williams & Wilkins, 2013							
参考書							
別冊「医学のあゆみ」グローバル感染症最前線-NTDsの先へ, 北 潔(編集), 医歯薬出版株式会社, 2017							
準備学習(予習・復習等)							
(1) 講義ごとに取り上げる文献を熟読し, 教科書の該当部分にも目を通しておく(約1時間)。 (2) 討論(ディスカッション)の内容について記録(サマリー)を残すこと(約1時間)。							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
過去の研究をベースに, 未解決の問題点を整理して新しい知見を得るための仮説を立て, 適切な実験によってその検証をし, 仮説の有効性を確かめるという一連の過程を学ぶことで, 科学的思考法と研究者としての専門的能力を身につける。							
注意事項・メッセージ							
一連の演習は, 研究者に必要な知識, 情報収集力, 相手に伝える力, 英語力, 情報の新規性・正確性を判断する力を身につけるために行うものである。常にこのことを意識して研鑽に努めること。							